附属光中だより

山口大学教育学部
附属光中学校
平成２９年１２月号

秋季オープンスクール

来年1月から始まる本校入学試験に先立ち、本年度第2回目となるオープンスクールを、去る11月12日（日）に開催しました。当日は見事な秋晴れで、多くの参加者にお集まりいただき、学校の様子などをご覧いただきました。

まず、恒例の全校合唱を披露しました。その後、学校長あいさつ、生徒会による新体操服の披露イベントの後、児童の皆さんは道徳科の体験授業に、そして保護者の皆様は附小・公立小、それぞれの会場で入試手続き等の説明を行いました。その後、中学校の体育館で「ミニ附中祭」を見学しました。そして、最後に希望者による部活動体験、部活動見学をしてもらいました。

実施後の保護者の感想からは、「合唱が素晴らしかったです」「中学生の挨拶が素晴らしいと思いました」などのお言をいただきました。

今回のオープンスクールの主役であった3年生は、あと4ヶ月足らずでこの学校を巣立っていきます。その3年生が引き継いできた伝統は、きっと今回のオープンスクールに参加してくれた新1年生達が引き継いでくれるはずです。少し気が早いような感もありますが、新しく本校のメンバーに加わってくれる人たちとの出会いを、今から心待ちにしています。

親子親善スポーツマッチ

本年度初の試みである、附属光学園おやじの会主催のスポーツマッチが、11月3日に開催されました。

今回は、野球・サッカー・男女バスケットボール・男女ソフトテニス・卓球・バレーボールの各競技において、多くの保護者の方にご参加いただき、生徒と熱戦を繰り広げました。部活動を引退した3年生も多く参加してくれて、たいへん盛り上がった催しになりました。

中学校ともなると、なかなか保護者と生徒が同じ競技に汗を流す機会はないように思いますし、ましてや保護者同士が同じチームで、自分の子どもたちとプレーするというのは、貴重な体験であるようにわたっている本校では、生活圏が広い地域に思うというのは、今回の催しは

生徒と保護者、保護者相互の繋がりを強くするために絶好の企画だったように思います。おやじの会の神代会長や芳岡PTA会長、そのほかこの会の企画・運営・そして参加者の皆様方に深く御礼申し上げます。また、来年度以降もぜひこの催しが継続されることを心から願っています。

12月のおもな行事予定

日	曜	給食	行事等	
1	金	○	３年三者面談	☆
2	土	－		
3	日	－		
4	月	○	生徒会役員選挙	
5	火	牛		★
6	水	○		
7	木	○	第４回公開授業研究会	
8	金	○	クラスマッチ	☆
9	土	－		
10	日	－		
11	月	○	朝礼	
12	火	牛		★
13	水	○		
14	木	○	１・２年保護者会　PTA評議員会	
15	金	○	１・２年保護者会	☆
16	土	－		
17	日	－		
18	月	○		
19	火	牛		
20	水	○	全校集会・生徒会役員任命式等	
21	木	－	冬季休業開始	
22	金	－		
23	土	－	天皇誕生日	
24	日	－		
25	月	－		
26	火	－		
27	水	－		
28	木	－	公務納め（～１／３まで閉庁）	
29	金	－		
30	土	－		
31	日	－		

スクールカウンセラー来校日

★兼行先生（10:30 ～ 17:00）　☆深野先生（14:30 ～ 18:00）

ひとの歳時記　　師走　　曽根唯之

みなさん、十二月は何をして過ごすことが好きですか。私は二つあって、ひとつは子供の頃は、ケーキを食べてチキンを食べてプレゼントまでもらえるクリスマスが大好きでした。私は父にこの一年間をいかによい子で過ごしたのかをアピールしていたように思います。

もう一つは父が旧国鉄で、年末年始関係なく働いていたため、師走は母と周防大島の祖母の家に帰省することでした。小さな頃は列車に揺られ、大畠駅からフェリーに乗り小松港に付き、そこからバスで屋代まで帰るのはすごく疲れて辛いものでした。しかし、小学校になると大島大橋が架かり、輝く緑の橋をバスに乗ってウキウキしながら帰ったのを覚えています。今ではしないのかもしれませんが、帰省する時は学生服に学生帽をかぶり身なりを整えて帰省していました。祖母の家には、お節料理はあるし寝る時間も制限されず、トランプやボードゲームで大人も一緒になって遊んでくれ、お年玉までゲットできるという夢のような時間でした。

ところで皆さんは、岩倉具視を知っていますか。小さなときのお年玉はポチ袋に岩倉具視の「五百円札」が入っていました。それが中学になってからは伊藤博文の千円札になり、嬉しかったのを覚えています。一方、両親が「将来のために貯金をしておこう」とそのまま持っていかれたあのお金はいったいどこへ行ったのだろうと思うこともありました。祖母は中学生は五千円、高校生になってからは一万円をお年玉としてくれていました。あの頃の私は、まるでお年玉をもらうことを当然の権利のように思っていました。しかし、年金生活の祖母が自分の生活費をこの日まで貯めてくれていたこと、両親も私がお年玉をもらった分、他に同じようにお年玉をあげていたなど、大人になって初めてわかることも多くありました。そして、出所が違うだけで親がすべてやってくれていたんだなと思えるようにもなりました。ところで「お年玉」について調べてみると、おとしだまの『たま』とは『魂』のことで、お供えしたものを下げたものが『としだま』という説があるそうです。お供えしていたものを下げたものには『力』があり、いただくことで一年間の『力』を分けてもらうという意味があるようです。私もその当時の大人たちのように、次の世代の人たちに『力』を分けることができるような人になりたいと思います。